

2023年7月26日

双葉町
国立大学法人大阪大学

双葉町と国立大学法人大阪大学との連携・協力に関する協定の締結について

双葉町（福島県双葉郡双葉町、町長：伊澤 史朗）、国立大学法人大阪大学（大阪府吹田市、学長：西尾 章治郎）は、「双葉町と国立大学法人大阪大学との連携・協力に関する協定」（以下本協定）を本日締結しました。

【本協定の目的】

本協定は参画する双葉町及び大阪大学が、地域づくり・研究・教育・産業振興等の分野において互いに持つ資源やノウハウ等を活用し協働することを通じ、地域社会の発展、研究活動の振興、人材育成、関係人口の創出を推進することを目的としています。

【今後の取り組み】

本協定による具体的な取組の一環として、大阪大学における共創的放射線教育プログラムの基盤である福島県浜通り地域環境放射線研修会を今後毎年実施する予定です。本年度は9月3日（日）～8日（金）、9月24日（日）～29日（金）の2回にわたって教職員・学生のべ82人が参加し、双葉町内において実施する予定です。

研修会では、文系理系の学生が互いに協力しながら環境放射線を自らの手で測定することで双葉町の環境放射線に関する状況の理解を促進するとともに、自然や復興の状況に直に触れることにより町の未来について一緒に考えます。これらの活動を通じて、復興、ひいては類似する社会問題の解決に資する人材を育成するとともに、若い力を通じて町の復興の推進を目指します。

【本協定の背景】

大阪大学は2011年の福島第一原子力発電所事故以降、浜通り地域において地域の立場に立ち、地域とともに様々な活動を行ってきました。そのような中、2016年に小規模ながら住民と協働する教育活動として環境放射線研修会を飯舘村で始めました。その後、2020年には大熊町に活動の場を広げ、本年は浜通り地域全体で150名近い学生が参加する予定です。

研修会は、帰還困難区域や特定復興再生拠点区域での土壌や植物などの試料採取と環境放射線測定などの実習、福島第一原子力発電所・中間貯蔵施設見学、地元住民ならびに関係者の皆様との交流、浜通り地域の復興や将来について考える議論から構成された充実したプログラムとなっています。本協定により、教職員・学生の活動の場が広がるだけでなく、積極的な人材育成が行えるようになり、双葉町の関係人口が増えていくことで、浜通り地域の復興につながっていくと考えています。

今後も双葉町、大阪大学は、より一層連携を深め、さらなる地域の活性化等に取り組んでまいります。